



東京日々新聞

九百十七号



大徳無徳小近しと貪りて飽事なき其身と失ふ。狐の跡も
 罹り魚の針もよりの念ふ此を忘るる故あり。まづよ
 武州青梅在の。あ。衆家あて。切見と探側へ益楽
 こそ置。頼。啼泣。其家の其出て
 見る。構外。老樹の梢。何方より来りけん
 年経大鷲羽。目。見張り。今や切見は
 つるま去らんと

三日月王
 驚き兼て所持
 あそ六条の小胞ありて

現ひながつ。お落せし
 羽波り丈余ありて身のこけ
 六尺余有りし。嗚呼此
 大鳥も深し。歳霜雪とちくま

月の知らざる。徳の爲。一期千歳の
 毒を縮む。鳥の。人よ。此迷ひ多くして。此境に入。あ。あ。あ

待乳山麓

新吟友人



萬壽



具足屋

水川栄

